



青森市子育て

サポートセンター

通信

H28. 7. 4 発行 Vol.10

青森市子育てサポートセンターでは、家庭教育に関する学習機会の提供(青森市内の小中学校で行われている家庭教育学級の運営サポート、子育て講座《きらきら塾》や、発達に心配のあるお子さんに関する講座《うとう塾》の企画運営)、情報収集と発信、また子育て相談の対応等を行っています。



わんわん塾

5/13

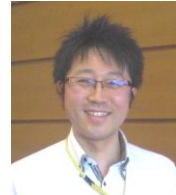
子育てに活かそう「個性心理学」

動物キャラでわかる、

私トビエのタイプ

いむらぎよし流個性心理学認定講師

しばたけんじさん



個性心理学は、個性・考え方・価値観の違いを知る学問です。個性は大きく3つ(太陽：天才チーム、月：いい人チーム、地球：しつかり者チーム)に分かれ、さらに12種類の動物とさまざまな性格の組み合わせで、計60分類にキャラクターづけられます。自分がどのグループなのか?また、子どもはどのグループなのかを知り、わが子や家族との関わり方を考える機会になりました。

◎「個性心理学」の柱となる考え方「アキラメル」と「個性は遺伝しない」

考え方や価値観の違いという「個性」をしっかりと受け止める。「諦める」ではなく、「明らかに認める」ということで「アキラメル」。そして、子どもたちの個性はバラバラ。両親とも価値観が合わなかったりするのは、「個性は遺伝しない」からという考えからだとそうです。



◎魔法の「とび」「ネーミングカード」

人との関わりの中には、理解できないことがたくさんあります。しかし、そこに壁をつくるのではなく、まずは、ひと呼吸おきます。そして、受け入れる体制をつくる言葉「そうくるか!」とひとこと。子育てでも、意味不明な出来事の連続ですが、「そうくるか!」と子どもに関心を持ち、個性を受け止めることが大事だということです。

◎「おしつけ」ない子育て



私たち親が、毎日頭を悩ませている「しつけ」。これもやり過ぎてしまうと、丁寧語「お」がついて「おしつけ」になってしまいます。自分の子どもは大切で、子どもの幸せを願い、つい口うるさくなってしまいます。しかし、子どもの個性を理解し受け入れることで、子どもとの関わり方を工夫し、楽しい子育てにつながるのだと強く感じました。

参加者の感想を紹介します

- 子どもと自分のタイプを知ることができてよかった。子どもとの接し方が変わりそうです。
- 子育てだけでなく、大人の間人間関係にも役立つお話でした。自分のことも知ることができて良かったです。
- 元々のキャラクターを変えようとする必要がないと勉強になりました。実践してみます。
- 子どもの個性によりNGワードややる気ワードがあると知りました。否定しないで関わるができそうです。(※アンケートから抜粋)



みんな外ではがんばってるといふことですか?

あさ

鳴海先生の子育てQ&A



児童心理治療施設「青森おおぞら学園」
施設長 鳴海明敏さん

「チャイルドラインあおもり」で子どもの声を電話で受ける活動もされている鳴海さんは、とてもわかりやすく私たちの疑問や質問に寄り添ってくださいます。

Q 小学校3年の男の子。人見知りもあり、一緒に遊びたいのに遊ぼうと声をかけられずにいたり、思っていることをなかなか表現できません。態度や表情から、思いや悩みがありそうなのですが、それを上手に聞き出すことが出来ません。どのように聞き出せばいいですか。



子どもが人として成長するためには、とても大きな意味があると思います。子どもが成長するチャンスだと思っています。立ち尽くした後で、前に進んで困難や課題にむしやぶりがついでいくことを選択するのか、それとも、振り向いて誰かに助けを求めるのか、私はどっちかを選んでほしいと思っています。「どちらかに、決断するまでの時間」にこそ意味があると思っています。外側からは見えませんが、子どもは、この立ち尽くしている間に、目の前に立ちふさがる困難や課題の大きさについていろいろ思いを巡らせながら、自分の力を見極め、自分にはこの課題

をクリアするだけの力があるのかというのを、自分一人で見極めようとしているのです。つまり、「自分のことを自分で決め、その結果を自分で引き受ける力」を育てているのです。まさに、人間として成長している瞬間なのだと思っています。

私が子どもの頃、家の近くに水門があって、川から水を取り入れていました。その水門部分の幅（1m〜2m位）を飛び越せるだろうか、ということが小学校高学年のある時期、私が直面していた課題の一つでした。勇気を出して飛び越せば、飛び越せそうな気もしますが、失敗して水に落ちてしまえば、上がる角度も関係がありそうです。あまり高く飛び出し過ぎれば、距離が伸びずに落ちてしまいうると思います。着地したとき足首をくじいたり、膝をすりむいたりはないだろうか怖かったし、自分には勇気がないのではないか、クラスメイトから臆病者といわれるのではないかと心配もしました。

結局、私は飛び越えることにチャレンジしなかったのですが、今でも、この課題を一人で抱え続けた自分を懐かしく思い出します。

子育てで四訓では、「少年は、手を離せ、目を離すな」と言っています。「手を離す」とはどういうことでしょうか。「目を離さない」とはどういうことでしょうか。それぞれの生活の中で、十分時間をかけて見つけて欲しいと思っています。

A 息子さんのことを、とてもよく理解されているお母さんだなあと思いました。その息子さんが、何か悩みを抱えている様子、なんとか手助けしてあげたい、でも、どんな悩みなのか分からないので、何をどうしてあげたらいいか分からない。それで、どのように聞きだせばいいのか、いい方法を知りたいということですが、このご相談を受けて、私が最初に思ったことは、「方法は、教えようとすれば教えられるけど、親は、子どもの成長のチャンスを奪ってはいけない！」ということでした。

困っている人を見たら助けたいのは人情ですし、ましてそれが我が子となれば、親の心は穏やかではいられないと思います。でも、ちよつと待つてくださる、いろいろなお節介、余計なお世話という言葉もあります。私は、困難や課題の前に立ち尽くすことは、子どもが人として成長するためには、とても大きな意味があると思います。子どもが成長するチャンスだと思っています。立ち尽くした後で、前に進んで困難や課題にむしやぶりがついでいくことを選択するのか、それとも、振り向いて誰かに助けを求めるのか、私はどっちかを選んでほしいと思っています。「どちらかに、決断するまでの時間」にこそ意味があると思っています。外側からは見えませんが、子どもは、この立ち尽くしている間に、目の前に立ちふさがる困難や課題の大きさについていろいろ思いを巡らせながら、自分の力を見極め、自分にはこの課題

をクリアするだけの力があるのかというのを、自分一人で見極めようとしているのです。つまり、「自分のことを自分で決め、その結果を自分で引き受ける力」を育てているのです。まさに、人間として成長している瞬間なのだと思っています。

私が子どもの頃、家の近くに水門があって、川から水を取り入れていました。その水門部分の幅（1m〜2m位）を飛び越せるだろうか、ということが小学校高学年のある時期、私が直面していた課題の一つでした。勇気を出して飛び越せば、飛び越せそうな気もしますが、失敗して水に落ちてしまえば、上がる角度も関係がありそうです。あまり高く飛び出し過ぎれば、距離が伸びずに落ちてしまいうると思います。着地したとき足首をくじいたり、膝をすりむいたりはないだろうか怖かったし、自分には勇気がないのではないか、クラスメイトから臆病者といわれるのではないかと心配もしました。

結局、私は飛び越えることにチャレンジしなかったのですが、今でも、この課題を一人で抱え続けた自分を懐かしく思い出します。

子育てで四訓では、「少年は、手を離せ、目を離すな」と言っています。「手を離す」とはどういうことでしょうか。「目を離さない」とはどういうことでしょうか。それぞれの生活の中で、十分時間をかけて見つけて欲しいと思っています。



初めの一步を踏み出そう！ うとう塾

うとう塾は、発達障がいに関する様々な情報の提供やサポートへの繋がりづくり、そして仲間づくりの場です。ひとりで悩んでいる方が最初の一步を踏み出す機会となることを目指しています。

発達障がいってなあに？ ～子どもとどう関わればいいのか～

弘前大学大学院医学研究科附属
子どものこころの発達研究センター
特任准教授 栗林 理人さん



「像優位型」では、その子どもに合った伝え方が違います。

また、子どもの成長・発達には

「養育環境」も大切な一つです。

例えば、物事の「全体」を捉えることが難しい(概念化が苦手)子には、全体を見れるようにフォローをしてあげる人や環境が大切です。また、「同時進行」をすることが難しい子には、時間の枠を決めて手順を設定すると行動がしやすくなります。(例：①靴をだす ②靴を履く ③外に出るなどの設定をする)

次に、障がい特性があるからといって行動範囲を学校と家だけとするのではなく、「居場所」がたくさんあるほうが良いです。例えば、祖父母宅・習い事・子ども会など「見守ってくれる大人」の存在が重要で、色々な経験から自分に

合った方向を自分で選択できるような環境を整えることです。周囲の大人達が情報を共有し合い、特性の理解や環境調整をすることで「生きづらさ」が軽減されていきます。

最後に、求められていることは『子どもの発達とその特性をよく理解し、それぞれの子どもたちに合った対応』ということで、子どもを取り巻く環境づくり(居場所づくり)をすることで、子どもの可能性の『引出し』をたくさん作ってあげることだと感じました。



青森市子育てサポートセンター

青森市子育てサポートセンターの運営は、私たち《青森市家庭教育サポーター連絡会》が、青森市教育委員会から家庭教育支援事業を受託して行っています。「青森市内で子育てをしている保護者のみなさんのお役に立ちたい！」という熱い思いで、活動に取り組んでいます。

TEL・FAX 017-774-6537 〒030-0813 青森市松原1丁目6-3 サンピア(勤労青少年ホーム)2F

Eメール aomorishi-saposen@arion.ocn.ne.jp ブログ <http://blog.goo.ne.jp/saposenrarara>

【開設日時】 毎週火曜日 10:00~13:00

